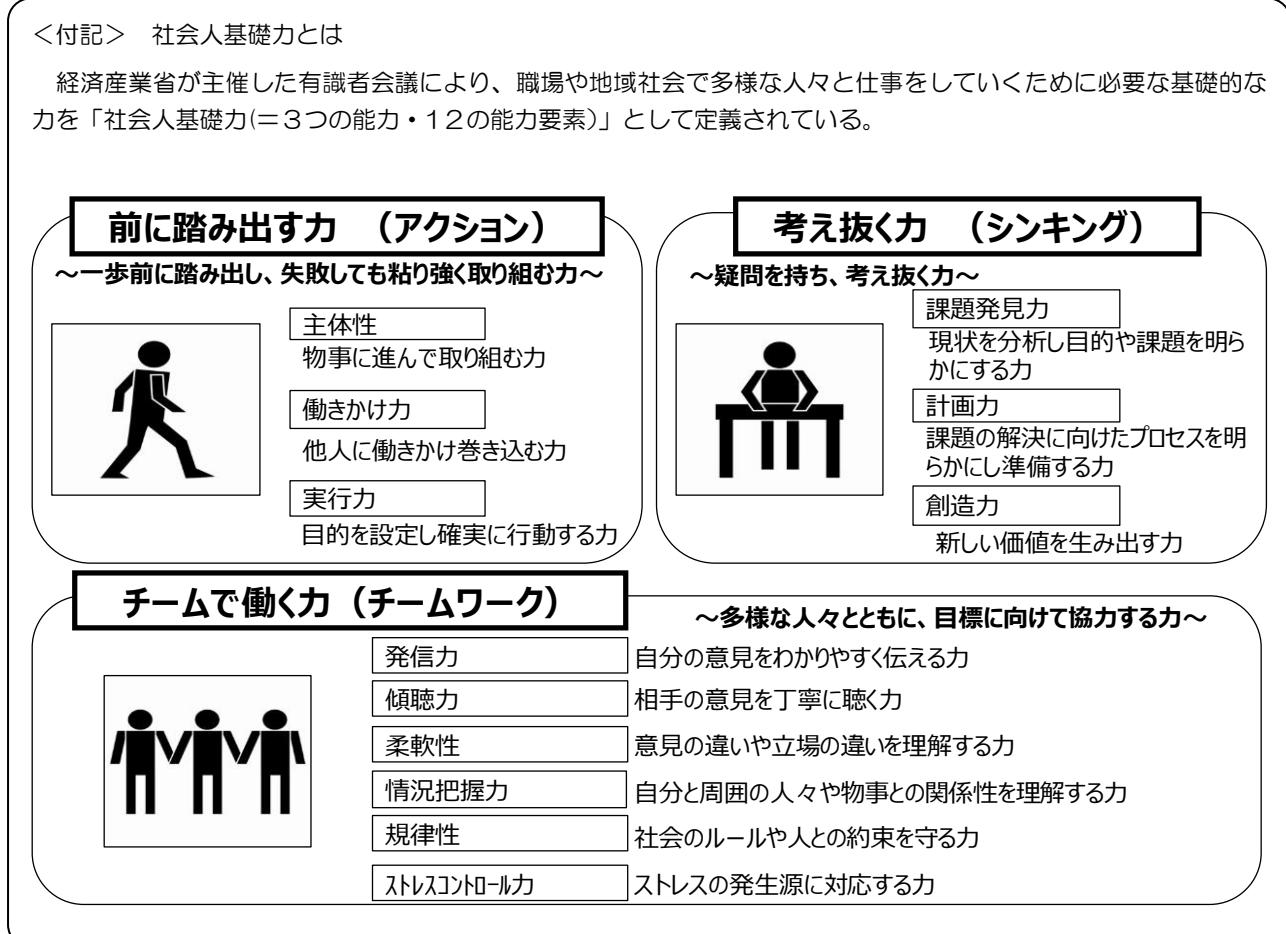
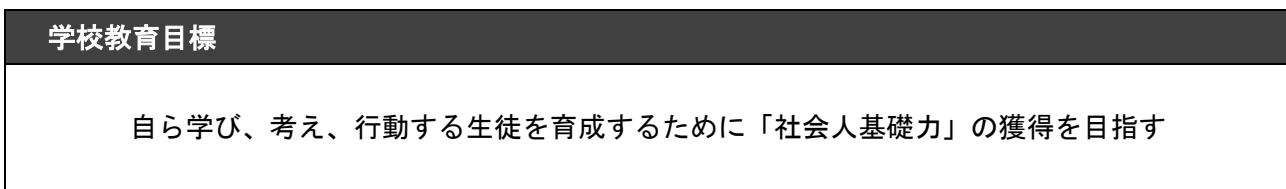
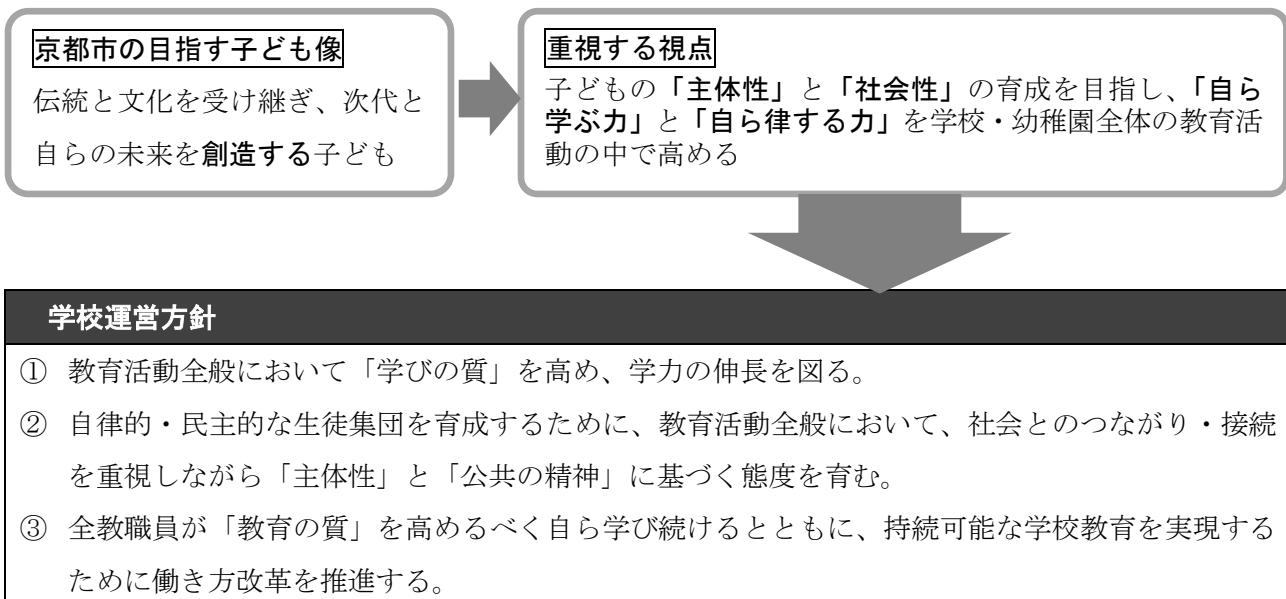


令和5年度 京都市立音羽中学校 学校教育目標



目指す生徒像

- | | | |
|-------------|-------------------------------|-----------|
| ① 自立 | 何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒 | 【前に踏み出す力】 |
| ② 思考 | 自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒 | 【考え方】 |
| ③ 共生 | 多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力できる生徒 | 【チームで働く力】 |

令和5年度 重点目標と詳細

① 学力向上

- 個に応じた学習課題を設定し、生きてはたらく「基礎的・基本的な知識、技能」の確実な習得を図る。(単元テスト、補充学習)
- 自律的思考やアウトプットを重視した授業への改善を図る。(ホワイトボードの活用、グループ学習の設定と個別評価の検討)
- 家庭学習の習慣化と日々の授業との連動を図る。(TOWAノートの活用と振り返りの重視)
- 基盤的ツールとしてのICT機器の活用を推進し情報活用能力の習得を図る。(情報活用能力アドバイスシート参照)
- 学習に困りを抱える生徒に焦点を当てた学習環境整備を図る。(ユニバーサルデザイン)
- 9年間を見通した学習指導を行うことができるよう小中連携をさらに推進する。
- 脳や身体の良好な発達を促すため、食教育を推進し食に関する意識を高め食生活(食習慣・食内容)の改善を図る。

② 民主的・自律的な集団の育成

- 生徒指導提要の改定に伴い、生徒会を中心に「校則」の見直しを行うなど自己決定の場を設定し、生徒集団の主体性を伸長する。(不易と流行、社会に照らす)
- 人権感覚の伸長により自他を大切にする教室文化の醸成を図る。(系統的な人権学習の実施)
- 公共の精神に基づいた態度を育成し安全・安心な学校文化を構築する。(凡事徹底)
- 立場や違いの理解をはかり、観念や概念の柔軟性を育くむ。(育成学級等との交流の推進)

③ 働き方改革の推進　　超過勤務月45時間以内の達成に向けて（令和6年度末）

- 超過勤務80時間を超える教職員をゼロにすることを数値目標とする。
- 教育活動を勤務時間内に収めることを基本とし、時程や取組の見直しを行う。
(勤務時間 8時30分～17時00分)
- 事務業務の効率化を推進する。
- 教育活動を組織的に実施するため、実施計画の策定と取組意図や内容の共有を徹底する。

○ は継続しての取組 ● は新規の取組